



校報

# けむやま

矢巾町立煙山小学校  
H29.11.20(月)第13号  
紫波郡矢巾町北矢幅 1-2  
Tel.697-3163

## 一沈一珠

【一沈一珠】：海女がいったん海に潜ったら、どんなに息が苦しくなっても、一個の真珠貝を見つけ出すまでは決して浮上しない、ということからできた言葉。

高め合おう  
礼節を重んじ美しく

校長室のガラス窓に、「がんばれ～～！」という歓声がしばらくの間響いていました。真っ赤な顔して走る子供たち。地面に座り込んで肩を上下する子供たち。持久走大会に向けて苦しい練習を潜り抜けた子供たちです。

11月9日(木)、いよいよその力を発揮する時がやってきました。2年越しの大会です。朝学校に来ると、案の定、前日からの雨で校庭に水溜りが浮いていました。中村教務主任と校庭に出て状況確認。「よし、やろう！」ということで、水溜りをスポンジで吸い取る作業を開始。すると、いつも早く出勤している先生方が何も言わずとも作業に入ってくれました。煙小の先生方の協力体制は見事です。

長距離を走り続ける辛さ、苦しきを通して、子供たちは一人一人自分の心の中に「一珠」の輝きを放つことと思います。強風と時折の冷たい雨。それをものともせず、頑張りぬいた子供たち一人一人に大きな拍手を送りたいと思います。

\*\*\*\*\*

### 心に響く小さな感想文 その2

前号に引き続き、シリウス様からご寄贈いただきました「心に響く小さな5つの物語」の保護者よりの感想文をご紹介します。

「幸福論」の三浦さんの言葉が心に残りました。「十のうち一つだけしか不満がない時でさえ、その不満を真っ先に口にする。なぜ感謝すべきことを先に言わないのだろう。」自分もそうだな、はっと気付かされました。世の中には感謝すべきことにあふれているのにも関わらず、ついつい目先の不満にぐちをこぼしてしまいがちです。何か自分の身に起きてから初めて物事の有難さに気付くことが多々あります。震災等はその一つです。今生きていることの有難さ、ありふれた「普通」に目を向けて、もっともっと視野を広く、心を広くしていきたいものだと考えさせられた話でした。

2年生 父

何不自由なく暮らし、遊び、ゲームをしているわが子は、この本を読んで何かを感じ、今後の生活に変化があらわれるのでしょうか？ 実際に困難に直面したとき、逆境をはねのけ、乗り越えられる人とくじけて落ちていく人がいます。どうか、わが子には強い心と強い忍耐で、これから迫ってくる様々な試練を乗り越えてほしいと願っています。

6年生 父

株式会社シリウス様

毎年すばらしい本をいただきましてありがとうございます。久しぶりに本を読みましたが、第1話から話の内容に引き込まれ、どの話も涙を流しながら深く感銘を受けました。自分が生まれたことや、環境、巡り合いに感謝すること、困難から逃げずに立ち向かう勇気を与えていただきました。如何なる逆境にも「一沈一珠」を胸に刻み、一歩ずつ少しずつでも前に進んでいきたいと思いました。夢に向かい、子供と一緒に励まし合い、一緒に学び成長できるように、これからの人生の道標として大切に使用させていただきます。

2年生 母